

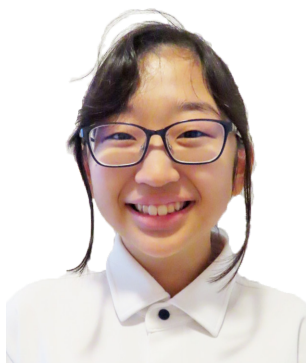
参加者たちの声



嘉穂附属中学校
※赤字は 10/7 修正

花田 唯心 さん

今回の海外派遣事業で、「知ること」の大切さと「実際に見ること」の大切さを学びました。現地ではショックを受けることもありましたが、この学びきっかけにして、夢を切り開いていきたいです。



桂川中学校 上田 こころ さん

海外派遣事業を通して、勇気を出して挑戦することの大切さを学びました。新しい場所への不安もありましたが、そこには「温かい人たちとの出会い」と「新しい発見」が待っていました。さらに新しいことに挑戦していきたいです。



桂川中学校 二ノ宮 蒼空 さん

別れの時に M.C.U. 校長からいただいた「あなたたちは家族だ」という言葉や、誕生日を祝ってもらったことに、彼らの優しさを深く感じました。将来は英語を身に付け、留学等で色々な国のことを知りたいです。



桂川中学校 福島 紅芭 さん

文化交流ではフィリピンの文化を深く学べ、日本の文化も伝えることができました。特に、私が点てた抹茶を絶賛してもらえてすごく嬉しかったです。ずっとサポートしてくれた学生バディの友達に感謝したいです。

最終日 ～ Huling Araw ～

8月
22日

「友情の祝祭」

いよいよ最終日。閉会式が執り行われました。M.C.U. の学校長あいさつの後、共同パフォーマンスが披露されました。学生バディと一緒に練習した「ソーラン節」や「炭坑節」が披露されました。続いて、「One Journey, Two Cultures (1つの旅、2つの文化)」と題した発表が行われました。今回の事業を通して、それぞれが学んだこと・感じたこと、その集大成となる内容でした。最後に修了証授与、記念品交換を経て、M.C.U. の生徒たちとのお別れの時。バスが出発すると、その後を追いかけてきてくれる生徒を見て、涙する参加者もいました。



Paalam na, Hanggang sa muli nating pagkikita!
(さようなら、また会う日まで!)



日本では見られない光景や出会った人々との思い出は、参加者の心に大きなものを残しました。それは温かいものであったり、苦いものであったりと様々です。また、海外との違いを見て、自分たちの住む「日本」という国を再認識した参加者も多く見られました。それらを糧として、参加者たちは成長し、もっと大きな世界へ羽ばたいていくことと思います。